

事業内容: No.	20190729-0071
団体情報: 団体名	バードライフ・インターナショナル東京
団体情報: 設立年月日	2002/4/6
団体情報: 団体の種類	一般社団法人 (非営利型)
団体情報: 法人格取得年月日	2011/4/1
団体情報: 代表者 役職	代表理事
団体情報: 代表者 氏名	鈴江恵子
団体情報: 〒	1030014
団体情報: 住所	東京都中央区日本橋蛸殻町1-13-1 ユニゾ蛸殻町北島ビル1階
団体情報: TEL	0362062941
団体情報: Email	
団体情報: ウェブサイト	https://tokyo.birdlife.org/
団体情報: 過去3年以内に非営利組織評価センター (JCNE) による評価を受けていますか	④受けていない
団体情報: 上記で①、②を選択した場合、コチラに対象URLを入力してください	
団体情報: 理事 (人数)	2
団体情報: 評議員・社員 (人数)	2
団体情報: 監事 (人数)	1
団体情報: 監事のうち公認会計士または税理士 (人数)	0
団体情報: 事務局職員 常勤有給 (人数)	9
団体情報: 事務局職員 常勤無給 (人数)	0
団体情報: 事務局職員 非常勤有給 (人数)	2
団体情報: 事務局職員 非常勤無給 (人数)	0
団体情報: 正会員 個人会員 (人数)	14
団体情報: 正会員 団体会員 (人数)	7
団体情報: その他 個人会員 (人数)	0
団体情報: その他 団体会員 (人数)	0
団体情報: ボランティア (前年度人数)	0
団体情報: 寄付 (前年度件数)	0
団体情報: 組織概要 (400字以内)	バードライフ・インターナショナル東京は、1922年に英国で発足した世界で最も古い歴史を持つ国際環境NGOバードライフ・インターナショナルの日本法人です。私たちは、「for nature and people」を合言葉に、鳥類を指標とした様々な国や地域の人々の生活向上とそれを通じた自然保護活動を行っています。2004年より、高円宮妃久子殿下にバードライフ・インターナショナルの名誉総裁にご就任頂いています。また、バードライフ・インターナショナル東京では、行政や企業、NGOと連携し、鳥類の保護や、森林・海洋保全、チャリティディナーの開催など、様々な形で環境保護に取り組んでいます。

公募システム入力項目

<p>団体情報: 助成事業の実績 (800字以内)</p>	<p>これまで実施した助成事業の各助成プログラム内容と成果は以下の通りです。 ・経団連自然保護基金 (2010-) 2010年より経団連自然保護基金の支援を受け、インド、ロシア、ベトナムの3団体に資金を分配している。特に2017年からは25周年記念特別基金助成事業の支援のもと、他2つの国際自然保護団体と協働でプロジェクトを立ち上げ、ブータン、カンボジア、ベトナムの3団体に資金を分配し、次世代の人材育成を実施している。 ・トヨタ環境活動助成プログラム (2009-) 持続的な資源利用による生計向上支援や絶滅危惧種の保全のため、これまで延べ7カ国のNGOに資金を分配し、プロジェクト管理を行っている。 ・株式会社リコー：森林保全プロジェクト (2007-) ブラジル、メキシコ、マレーシア、ブルキナファソの4カ国において、地元住民の生活向上を目的とした植林などを実施する現地NGOに資金を分配し、プロジェクト管理を行っている。 ・富士通株式会社：インドネシア・スマトラ島の森林保全 (2018-) インドネシア・スマトラ島の低地性熱帯雨林「ハラパンの森」の保全を推進するため、インドネシアのNGOに資金を分配し、森林の保全をより効果的に行うICT端末の導入支援、パトロール強化など地元のプログラム・オフィサーに対する伴奏支援を実施している。 ・チャリティ・パーティーによる資金獲得と世界各地への資金分配 (2009-) 2009年より、600名規模のチャリティ・パーティー「ガラ・ディナー」を東京と大阪で開催している。現在、毎年2回、計5,000万円以上の支援金をアジア、アフリカ、南米など世界中のパートナー団体に分配し、活動の進行を管理している。2018年には、合計2,700万円をインドネシア、カンボジア、パラグアイ、ブータン、サントメプリンシペの5団体に分配した。</p>
<p>団体情報: 前年度の助成件数 (件)</p>	<p></p>
<p>団体情報: 前年度の助成総額 (円)</p>	<p></p>
<p>団体情報: 決済責任者 (常勤/非常勤)</p>	<p></p>
<p>団体情報: 決済責任者 役職</p>	<p></p>
<p>団体情報: 決済責任者 氏名</p>	<p></p>
<p>団体情報: 経理担当者 (常勤/非常勤)</p>	<p></p>
<p>団体情報: 経理担当者 役職</p>	<p></p>
<p>団体情報: 経理担当者 氏名</p>	<p></p>
<p>団体情報: 通帳管理者 (常勤/非常勤)</p>	<p></p>
<p>団体情報: 通帳管理者 役職</p>	<p></p>
<p>団体情報: 通帳管理者 氏名</p>	<p></p>
<p>団体情報: 年間決算の監査を行っていますか?</p>	<p>②外部監査で実施</p>
<p>団体情報: 上記で ③その他で実施 を選んだ場合はコチラに記述してください</p>	<p></p>
<p>団体情報: 必要な会計帳簿が備え付けられている</p>	<p>はい</p>
<p>団体情報: 業務別に区分経理ができる体制である</p>	<p>はい</p>

公募システム入力項目

団体情報: 関連する情報 (複数選択可)	寄付やボランティア等の市民参加がある; 当事者、住民の参加がある; 民間企業との連携がある; 助成先に非資金的支援を行っている; マッチングファンドを取り入れている; 専任のプログラム・オフィサーを置いている (または育成している); 助成活動の案件の発掘・形成・発展のための情報収集や調査研究を行っている; 他のセクター・団体との共創・協働; その他
団体情報: 3年前 年度 (西暦)	2016
団体情報: 3年前 年度期間 (開始)	2016/1/1
団体情報: 3年前 年度期間 (終了)	2016/12/31
団体情報: 3年前 総額 (円)	
団体情報: 3年前 会費 (円)	
団体情報: 3年前 自主事業 (円)	
団体情報: 3年前 寄付金 (円)	
団体情報: 3年前 受託事業 (円)	
団体情報: 3年前 国・地方公共団体からの助成金/補助金 (円)	
団体情報: 3年前 民間からの助成金 (円)	
団体情報: 3年前 その他 (円)	
団体情報: 2年前 年度 (西暦)	
団体情報: 2年前 年度期間 (開始)	
団体情報: 2年前 年度期間 (終了)	
団体情報: 2年前 総額 (円)	
団体情報: 2年前 会費 (円)	
団体情報: 2年前 自主事業 (円)	
団体情報: 2年前 寄付金 (円)	
団体情報: 2年前 受託事業 (円)	
団体情報: 2年前 国・地方公共団体からの助成金/補助金 (円)	
団体情報: 2年前 民間からの助成金 (円)	
団体情報: 2年前 その他 (円)	
団体情報: 1年前 年度 (西暦)	
団体情報: 1年前 年度期間 (開始)	
団体情報: 1年前 年度期間 (終了)	
団体情報: 1年前 総額 (円)	
団体情報: 1年前 会費 (円)	
団体情報: 1年前 自主事業 (円)	
団体情報: 1年前 寄付金 (円)	
団体情報: 1年前 受託事業 (円)	
団体情報: 1年前 国・地方公共団体からの助成金/補助金 (円)	
団体情報: 1年前 民間からの助成金 (円)	
団体情報: 1年前 その他 (円)	

公募システム入力項目

団体情報: 今年度 収入見込み総額 (除休眠預金円)	
団体情報: 今年度 会費 (円)	
団体情報: 今年度 自主事業 (円)	
団体情報: 今年度 寄付金 (円)	
団体情報: 今年度 受託事業 (円)	
団体情報: 今年度 国・地方公共団体からの助成金/補助金 (円)	
団体情報: 今年度 民間からの助成金 (円)	
団体情報: 今年度 その他 (円)	
団体情報: メモ	2005年4月～2011年3月までは、NPO法人として登記。理事及び監事の人数には、選任中の人員を含む。
申請事業 分類1	②新規企画支援事業
申請事業 分類2	
申請事業 分類3	
申請事業名 主題 (15字以内)	マイクロプラフリー社会の提案
申請事業名 副題 (任意・30字以内)	海藻によるマイクロプラスチック除去と地域活性化
助成希望期間	3年
助成金申請額 (円)	199460000
優先的に解決すべき社会の諸課題 (複数選択可)	⑥【分野3】地域の働く場づくりの支援; ⑦【分野3】安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援; ⑧その他
その他 を選んだ場合はコチラに記述してください	海洋プラスチックゴミ問題
申請事業の概要 (300字以内)	今日、海洋プラスチックゴミによる海洋汚染、マイクロプラスチックの生態系への影響が世界的課題となっている。本事業では、海藻がマイクロプラスチックを吸着する事実に着目し、海藻資源の活用に取り組む中海を囲む地域において、海藻によるマイクロプラスチック除去手法確立を目指す。また、同地域の地域活性化に向け、「マイクロプラフリー」な海藻および海藻肥料を用いて生産した農作物等の商品開発、広報・マーケティングを通じた高付加価値化、都市部を視野に入れた新規市場での販売という持続可能なトリプルメリットの産業モデル構築を提唱する。更に、本事業で得た知見をマイクロプラスチック除去の手法として広く国内外に発信する。